

冬場に地震が発生した場合、降り積もった雪が避難を妨げたり、雪崩を引き起こしたりして、被害が増大する恐れがある。専

門家は迅速な避難のために日頃から準備しておくことや、地域で高齢者を見守る態勢づくりを呼び掛けている。

冬の地震 雪が避難妨げ

高齢者宅 除雪支援を

車に防寒具積み給油も

政府は昨年12月、北海道から東北の太平洋沖にある日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震被害想定を公表。積雪による逃げ遅れや寒さによる低体温症など、寒冷地特有の条件で被害が拡大するとした。

積雪の多い地域では、屋根に積もった雪の重みで家

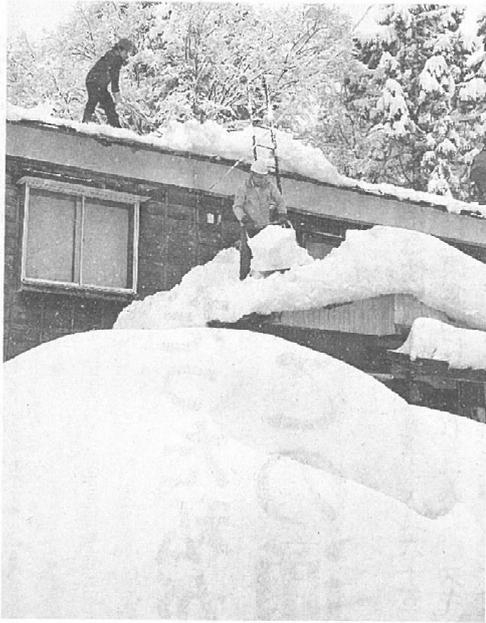
屋の倒壊が増える恐れがある。倒壊を免れても、屋根雪の重さと揺れて戸が開かなくなれば、避難ができない可能性も。日本防災士会県支部の防災士藤木忠雄さん(69)津南町は「雪下ろしや除雪は小まめに行つてほしい」と話す。

自宅周辺の除雪では避難

口を確保するという視点も必要だ。藤木さんは「迅速な避難のために玄関以外の通用口も必要」とアドバイス。高齢者世帯の場合は「行政による除雪費用支援や除雪ボランティアが欠かせない」と指摘する。

積雪や凍結は徒歩での避難を遅らせる。藤木さんによると、指定避難所が遠い場合は近くの集会所を利用してもいいという。

無事避難できても、停電で避難所の暖房が使えない場合が考えられる。新潟大災害・復興科学研究所のト部厚志教授は「車で避難する人が多くなるだろう」とし、「冬は車の給油を小まめにしてほしい」と強調する。車はラジオなどで情報を得たり、シガーソケットからスマートフォンを充電したりすることもできる。



除雪ボランティアによる高齢者宅の雪下ろし。安全に気を付けてつつ、小まめに行つことが地震への備えになる。1月、十日町市

電気を使わない石油ストーブは停電中でも使用可能。キャンプ用の鍋やガスバーナーがあれば、お湯を沸かすことができる。ト部教授は「保温性のある敷きマットは防寒具になるので車に積んでおくといい」と勧める。「冬の地震のために特別に用意するのではなく、普段使っている物を災害時に活用するという視点を持ってほしい」と助言した。

2022年2月6日新潟日報
朝刊19面